第９回市民賞

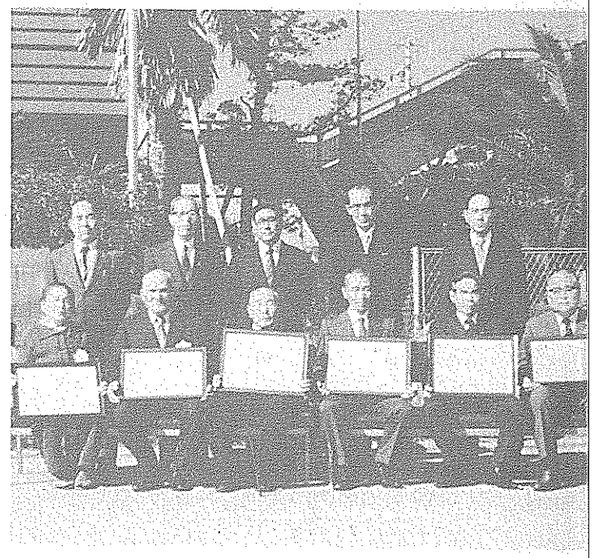
福重さんら はれやかに授賞

これからも社会奉仕に尽力

広く一般市民のなかから産業、教育、文化、政治、社会労働などの各分野に貢献された功労者や社会のための事蹟、善行など、かくれた篤行者を表彰する才九回市民賞の授与式は、十一月三日、市役所大会議室で行われました。

表彰されたのは▽産業部門で福重幸一（69）さん、農業＝稲生西谷＝▽行政部門には元市長の金堂久喜（65）さん、山田堀井筋土地改良区理事長＝甘枝＝▽一般部門は、久枝の山本長利（75）さん、農業、と三十年間助産婦として活躍された竹島春江（86）さん＝前浜＝の二人、▽社会福祉部門で溝渕亀吾（82）さん＝農業、大埔八木＝の五人の方々で、小笠原市長から一人ひとりに表彰状と記念品が贈られました。

そして小笠原市長から『みなさんは明治時代からの生きた歴史であり、生き証人です。個人の利益や地域エゴのない心で社会のため尽くされてきました。これからも健康で活躍を』と、はげましとよろこびのことばがあり、利岡宮次表彰選考委員長より『いづれも立派な人たちばかりで、功績はどうだったか、人柄はどうか、かくれ功績はだれか、の三つの規準によって選考した』と選考に至る経過を述べ、『今日の感激を忘れずにこれからも市や社会のために奉仕したい』と、授賞者を代表して溝渕亀吾氏より謝辞があり授賞式を終りました。



国沢選管委員長 急逝さる

長らく市選挙管理委員長として活躍され、県選管委員長会会長の要職にありました国沢嘉一さんは、十月十四日急逝されました。

つつしんでお悔みを申しあげます。

自主財政計画

議会了承本決まり

さきに開かれました九月定例市議会最終日（十月九日）の本会議終了後に、議員総会が開かれて、県を通じて自治省へ提出される『自主財政再建計画書』の報告が、小笠原市長からなされ、議会の了承をうけました。

この財政再建計画は、自治省の指導要領に基づいて作成、手続きを踏むものですが、財政再建準用の指定団体と異なり、議会の正式な議決を必要とせず、この計画の了承によって、財政再建計画が決定し、自主再建によることが本決まりとなりました。

北陵中学校

歳入確保で要望盛り 計画書県へ提出

計画書は、▽財政再建の基本方針。▽財政再建に必要な具体的措置。▽歳入、歳出年次統合計画などの四項目からなり、赤字の原因や経常収支の状況などについても記述されています。

◇ **財政再建の期間**

五十一年度から五十四年度までの四か年。

◇ **財政再建の基本方針**

五十年度末における累積赤字三億六千七百五十五万円の生じた理由と解消の方策を示したもの……多額の赤字を生じた原因は、

『四十八年度より財政の硬直化が進んだこと、負担能力を超えた過大事業の執行にある』とし、

財政構造の硬直をみたのは、

『昭和四十一年度より実施した給料表の〝峯わたり〟と給料表の運用、昇給の短縮、保育所職員などで類似団体に比べ職員数が多いこと』などによる人件費の増加、管理経費の節減、合理化に努力せず、チリ袋の無料化の実施などによる『物件費の経常収支率の増』などが目立つものだとしており、

さらに過大な事業の執行は、

『単年度の赤字原因にとどまらず、財源確保のための債務負担行為による借入金や、類似団体に比べて多い起債の償還が急増し、後年度の財政を圧迫している』などが、主な理由であると分析しています。

そして、複雑多様化する行政需要と住民要求に対処できる弾力性のある建全財政を確立するため、歳入の確保、歳出の合理化の是正を行なうと総論で述べ、

里保育所

▼歳入事項▲

▽市税の税率引き上げと徴収率の向上、▽使用料の適正化、▽証明料の引き上げ、▽遊休施設の積極的活用と処分を行なうなど歳入確保の合理化に努力する。

▼歳出事項▲

▽人件費の節減（勧奨退職、欠員不補充、課、機構の統合合理化、各種手当の削減、定期昇給の一年延伸、保母配置の検討）▽物件費の合理的な節減、▽補助金、扶助費などの抑制、▽投資的経費は財政力の範囲内で重点的に実施する。▽起算の充当は後年度負担を考慮し慎重にし、財源確保のための債務負担行為は行なわない。

予算執行に当っては経営財源に

（四Ｐ下段へ）